

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
木材・木製品	製材業	原木市況は製品出荷量の減少で下げ基調であり、秋需を迎えるも、引合い増は期待できそうにない。製品も新規住宅着工戸数が、持ち家を中心に3か月連続で減少するなどの不振を背景に、荷もたれ感が強く、当用買いが目立っている。
木材・木製品	製材業 (プレカット)	9月の実績は前年比87%で引き続き低迷した状態である。住宅の着工数も前年と比べ減少し、減少幅は次第に大きくなっている。多頭数の工務店も軒並み受注を落としており、前年度の70%~80%位が平均である。木材の価格はある程度高値ではあるが安定しているのに対し、他の資材の価格ははまだ上昇傾向にあり消費者の買い控えが一段と進む気配がある。非住宅については予想に反して落ち込みがなく、年内の受注は好調に推移すると考えている。
木材・木製品	製材業 (プレカット)	8月より製品の受注が減少し、製材、プレカットなどの生産も減少している状況である。9月も同様で、7月と比較し製材量、プレカット量ともに15%減となっている。製品単価は高止まりより、若干の下降減少にあるが、依然として資材高騰や円安の影響で住宅価格が上昇し、消費意欲が薄れている状態と考えられる。10月からの動きも厳しいと思われる。
印刷	印刷・同関連業	依然として景気が回復しきれていないので、印刷業界は値上げに対してそれぞれ工夫をしながら出来ることを実行している。
印刷	印刷・同関連業	今年に入って印刷用紙、印刷材料、送料などが次々と値上がりしたという話を何度もしてきたが、今年2度目の印刷用紙の値上げが10月分から行われる。4月に20%、そして10月に更に10%の値上げで、利益の確保に苦慮している。
窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	台風被害により、1工場が水害にあい、1ヶ月以上の出荷停止を余儀なくされているが、組合の長所を活かし、他工場より出荷し、お客様へ迷惑がかからないよう運営できている。一方で、1工場分のミキサー車不足の影響は大きく、大きい物件の台間を縫って小さい物件へ手配をしている状況である。
窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	先月の状況と大きな変化はなく、昨年同月比49.7%と非常に悪い。累計でも49.2%と悪い。今期はこの様な状況の可能性有り。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
非製造業	卸売業	卸商業	新型コロナウイルスの影響と半導体不足がいまだに尾を引いており、需要停滞の先が見えない状況である。
	小売業	小売商業	9月は例年売上が厳しい月であり、特に今年はコロナ禍での行動規制が緩和され、集客の販促イベントを開催した。開催中の第三週末に台風14号が接近し、速度も遅く、暴風雨による停電の影響により、3日間の営業停止を余儀なくされ、集客で12%、売上が14%程度の影響を受け、全体としては集客、売上とも前年比12%程度の落ち込みとなった。コロナに諸般の経済状況の悪化、更に自然災害が社会情勢の不安を駆り立て、厳しい危機的状況が続いている。
	小売業	LPGガス小売販売業	9月CP価格(サウジ通告価格)は650 <sup>ドル/トン</sup> (前月比△20 <sup>ドル/トン</sup> )。8月MB価格(米国産平均価格)+(米国物流経費80 <sup>ドル/トン</sup> )は652 <sup>ドル/トン</sup> (前月比△25 <sup>ドル/トン</sup> )。対顧客電信売相場(8月平均)は136.24 <sup>円/ドル</sup> (前月比△1.55 <sup>円/ドル</sup> )。原油価格が底堅く推移したにもかかわらず、LPG価格はアジアでの需要低迷等により若干の下落となった。今後は、OPECプラスの協議の行方、イラン核合意再建協議、欧米の金融政策、中国におけるゼロコロナ政策での経済影響を注視したい。
	商店街	宮崎市	コロナ禍の生活様式に慣れ、人出が少ない。
	商店街	都城市	コロナ感染者数が落ち着き街にも人が出てくるようになった。各店舗の売上も上々のようだが、原材料の高騰が止まらず苦慮している店舗が多い。
	サービス業	観光業	今月もコロナウイルスのため、予約の9割がキャンセルになった。他県のバス会社は廃業するところもあり、同じガイド業の廃業者も多いのが現状である。10月からの繁忙期に期待したい。
	サービス業	自動車整備業	車検の入庫台数は前年比約15%減と、今年度に入り一番の減少だった。ただし、板金塗装については台風被害の車両の入庫が多かった。
	サービス業	不動産業	仕入価格の上昇で工事価格の上昇が懸念される。
	サービス業	測量設計業	台風14号における災害対応にて業界自体がパニックになる程の負荷がかかっている。今の所まだ先の見通しが立っていない状況で進行中。長時間労働の心配も出てきている。
	建設業	管工事業	共同受注工事は順調に推移しており、修繕工事は増加傾向、公道工事は前年比微増、前々年比では減少している。 資材供給品売上は、公共工事の発注が例年比やや早いため、また、資材価格上昇もあり前年比増加しており、前々年との比較でも増加している。 9月10日(土)実施予定の大淀川河川敷の清掃ボランティア(組合員等総勢123名が参加予定)は、コロナの感染拡大により昨年に引続き中止にしたが、コロナがやや落ち着きを見せ始めたことから、再度実施を計画し、10月29日(土)に実施予定である。
	建設業	管工事業	最近、水道施設工事が一般競争入札で発注されているが、参加する事業者がないため不調が続く、結局は指名競争入札で再発注されている。
	運輸業	軽貨物運送業	新型コロナウイルス感染症が感染拡大する中で、事業の継続が非常に厳しい状態である。組合員の高齢化も進行しており、厳しい環境での経営を強いられている。職種によって荷動きが活発な取引先もあるが、全体的に前年対比で減少傾向で推移して。他の軽自動車運送事業者も同様に厳しい環境が続いている。燃料関係は高止まりのままで推移し、厳しい状態である。
	運輸業	貨物運送業	世界的な金融引き締め動きが景気減速につながり、今後は原油需要減退の見方が強まっていることから原油価格は下落すると思われるが、国内燃料価格は政府の燃料油価格激変事業の補助が減額されることが予想されるため、国内市場価格については小幅に上昇すると見込まれており、組合員は先が見通せず不安感が募っている。